

Association between atherosclerosis and newly classified chronic kidney disease stage for Japanese patients with type 2 diabetes

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2010-03-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 山本, 理紗子 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2000990

順天堂大学 博士 (医学)
氏 名 山本 理紗子

論文題目 Association between atherosclerosis and newly classified chronic kidney disease stage for Japanese patients with type 2 diabetes
(2型糖尿病患者におけるCKD stage分類と動脈硬化症との関連)

論文内容の要旨

【背景と目的】動脈硬化症との関連が指摘されている慢性腎臓病 (CKD) の stage 分類には推定糸球体濾過量 (eGFR) の計算式が用いられている。しかし、eGFR の計算式は人種差の影響を受けるため、日本腎臓病学会から日本人に適した新しい計算式が提案された。これまで、2型糖尿病患者においてこの計算式により分類されたCKD stageと動脈硬化症との関連は明らかになっていない。そこで、新しいeGFR計算式を用いてCKDのstage分類を行い、動脈硬化性疾患との関連を検討した。【対象及び方法】対象は順天堂医院糖尿病・内分泌内科に受診中の患者から無作為に抽出した653名 (男性422名、女性231名) の2型糖尿病患者で、2004年1月から2006年12月までの3年間、体重、血圧、尿中アルブミン排泄率 (UACR) の測定と血液検査を行った。また、脳卒中、虚血性心疾患の新規イベント発症率を調査し、CKD stageとの関連を検討した。また、頸動脈エコーにより内膜中膜複合体肥厚度 (IMT) の測定を行い、CKDとIMTとの関連も検討した。【結果】調査開始時のCKDの有病率は309名 (47.3%) であった。CKD stage 2もしくはstage 3を伴う患者はstage 0に比べて有意に脳卒中や虚血性心疾患の既往歴が多かった (脳卒中: 17.6% vs. 10.5%、虚血性心疾患: 25% vs. 9.3%)。また、3年後の調査終了時で新規のイベント発症率はCKDのstageが進行するほど、増加する傾向を示した (CKD stage 0: 0.9%, stage 1 or 2: 3.2%, stage \geq 3: 3.4%, $P=0.056$, Cochran-Armitage test)。また、全患者での中央値 (eGFR: 75 ml/min/1.73 m²、UACR: 20mg/gCr) をカットオフとして単変量解析を行ったところ、UACR \geq 20、eGFR < 75の患者では新規イベントの発症率は有意に高かった (UACR: 3.5% vs. 0.6%, $P=0.013$ 、eGFR: 3.3% vs. 0.7%, $P=0.028$)。さらに、IMTはeGFRと負の相関関係を認め ($r=-0.27$, $P<0.05$)、stage \geq 3の患者ではstage 0と比べて有意にIMTは高値であった (0.816 \pm 0.130 mm vs. 0.914 \pm 0.163 mm, $P<0.01$)。【結論】新しいeGFR計算式により分類されたCKD stageと動脈硬化症との間に相関が認められることが明らかになった。